



4月26日開催予定のイベント延期のお知らせとお詫び

(池田 光司)

前回、2月2日発行の「ポレーシェ 175号」でお知らせしました、チェルノブイリ救援・中部発足30年の記念イベント「チェルノブイリと福島の間までとこれから」を延期することとしました。すでに4月26日のイベントに参加をご予定いただいていた方々につきましては、誠に申し訳ありませんが、ご予定を変更いただくようお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が広がる中、イベントを予定通り開くか延期するかについて、事務局会議と運営委員会で話し合いを重ね、

- 1) 参加される方々の感染のリスクを冒してまで、今開かなければいけないイベントではない
- 2) 感染のリスクが高まるか収まるか、状況が読めない中で十分な準備と対応ができない

…などから、延期の判断をしました。新型コロナウイルスの対応につきましては、様々な考え方や意見もあることと思いますが、みなさまには今回の延期の判断をご了承願えればと思います。

ただ、今回のイベントは、「チェルノブイリと福島における原発事故とその影響」が、急速に忘れ去られていくことへの危機感から企画したものです。30年の活動を通して見えてきたのは、「放射能汚染を伴う原発事故の深刻さ」と、「放射能汚染を乗り越える絆と知恵の大切さ」だと思います。そのことを、一人でも多くの人に伝えたい。その気持ちから企画したイベントです。現時点でいつ開催するかを決めていませんが、必ず開催しようと考えています。開催が決まりましたら、またご連絡しますので、その際はぜひご参加ください。

新型コロナウイルスにつきましては、感染のリスクが見えず先行きが見えない中、深刻な影響を受けられたり、不安を感じられたりされている方もおられることと思います。このような状況の中、みなさまにおかけする言葉がなかなか見つかりませんが、ポレーシェを読む時間が、少しでも心落ち着く時間になれば幸いです。みなさま、心と体をお大事にしてください。

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STプラザ鶴舞 本館5階B

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行名：三菱UFJ銀行 高畑支店(店番号297)

口座番号：普通 1682863

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 池田 光司

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

「南相馬便り」

(神野 英樹)

★ コロナ騒動で、イベントが相次ぎ中止！

昨秋、「第18期 測定隊」を直撃した「台風19号」に続き、今春は「COVID-19号」が日本に上陸して猛威を奮っている。東日本大震災から丸9年となった2020年3月11日、とどけ鳥の事務所で黙祷を捧げながら、「福島復興」の願いにもまた、逆風が吹き荒れていることを実感した。

準備が進められていた「3.11 追悼イベント」や「復興祈念イベント」が、軒並み自粛(中止・延期・縮小)となり、私たち「とどけ鳥&再生協」の活動も、大幅な変更を余儀なくされた。具体的には、万難を排して準備中の「第19期 測定隊(4/4・5・11・12)」における参加者の確保(キャンセル対応・受入体制の整備)・「油菜のさと」事業の「第2回 環境フォーラム」の日程変更(3/21→5/16に延期)・「菜の花 花見会」の企画一部変更(5/2に予定通り実施するが「昼食&交流会」は自粛して取りやめ)、そして、4/18~4/19に予定されていた「第20回 全国菜の花サミット(in 栃木県小山市)」は来年に順延、4/26に予定されていた「チェルノの発足30周年記念イベント」もまた、7月以降に順延...と、その対応に追われる日々が続いている。

★「油菜ちゃん」在庫売り尽くし キャンペーン！

「COVID-19号」の脅威は、日本の経済全体に大打撃を与えているが、私たちの「油菜ちゃん」もまた、販売数量が激減し、「在庫賞味期限切れ」の不安に襲われている。このような時にこそ、「油菜ちゃん応援団」の皆様は助けてもらいたい。「買って・食べて・使って」...応援！ 皆様の絶大なるご支援を！(詳しくは、同封のチラシにて)

お問い合わせは、直接「南相馬農地再生協議会(TEL/FAX:0244-23-5611)」へ。(火~金; 10時~16時)。

★ 充実を目指す「放射能測定マップ」！

「第19期 測定隊」は、引き続き「LUSH ジャパン様」のご協力を得て実施できる運びとなったが、今回は「常磐線全線開通(3/14)」に合わせて、新たに「避難解除(測定可能)」となった、「双葉町・大熊町」の一部を測定地区に加えることとした。また、地図製作会社「シェアリングネット(藤

野氏)」のご提案で、比較マップの左側の地図を、各地域を一番最初に測ってでき上った地図...「南相馬市鹿島区&原町区(2011年7月)」「南相馬市小高区(2012年5月)」「浪江町市街地(2013年4月)」「浪江町114号線沿い(2014年4月)」「富岡町(2016年4月)」「大熊町の一部(2019年5月)」...を、切り貼りして合成した地図を作成して、最初の測定年月を明記したものとするに決めた。

これにより、色の変化がより鮮明になり、汚染の低減を実感することができると考えている。

★ 全線開通した JR 常磐線の実態！

「常磐線全線開通」に合わせて、私が毎週通う「名古屋駅→原ノ町駅」の交通機関として、開通した常磐線を利用することにした。往路(平日の昼頃)、いわき駅→原ノ町駅間は、かなり利用客が高かった(乗車率70%程度?)が、途中の富岡駅・大野駅・双葉駅・浪江駅は、ほとんど「誰も降らない/誰も乗らない」状態。また、復路では「空間線量」を測定。車内での測定にもかかわらず、浪江~富岡間を走行中の列車内では、時折警報が鳴り、「0.4~0.5 $\mu\text{Sv/h}$ 」を示すエリアがあった。
*最後に、2020年2月29日付の東京新聞の記事を、一部抜粋して紹介しておきたい。

【常磐線全線開通(3/14)に向けた「特急ひたちの試運転」で明らかになった、粉塵汚染】

全線開通(3月14日)に向けたJR常磐線の試運転で、福島県内の帰還困難地域を通過した車両に付着したチリの放射能濃度が、通常の車両より23倍も高かったことが分かった。調査した労働組合「動労水戸」の木村郁夫委員長らが28日、県庁で記者会見して明らかにした。木村委員長は「JRは車両の線量をきちんと測定し公表すべきだ」と指摘している。

調査した試運転の車両は、1月18~22日の5日間運行。フィルターは、モーターなどの空冷装置に取り付けられ、外気を取り込む際にチリなどを除去する。その結果、「2,350Bq/kg」のセシウム137が検出された。一方、6ヶ月間通常運行した車両のフィルターのチリから検出されたセシウム137は、「101Bq/kg」だった。フィルター洗浄などの車両検査に従事し、調査を担当した照沼靖功(やすのり)書記長は、「車両に放射性物質が付着するのは明らかだ。整備員がチリを吸い込み、内部被ばくする危険性は高い」と訴える。(佐藤圭)

「放射線量率マップ作成」に対して

「ラッシュジャパン チャリティバンクからの助成が決定」しました

池田 光司

ラッシュジャパンのチャリティバンクからは、2018 年春・秋、2019 年春・秋と、4 回にわたり、空間線量率の測定とマップ作成、および土壌線量測定とマップ作成に対して助成を受け、これらにかかる費用を全面的にご支援いただいていた。通常チャリティバンクは、自ら継続的な活動ができるようになるまでの繋ぎとなる支援を主にしている、2 年 4 回にわたる支援はとても異例なことでした。実は、前回「2019 年秋の助成が最後」ということが、チャリティバンクから伝えられていました。今回決定した 2020 年の春と秋の測定に対する助成は、チャリティバンクが私たちの測定に対する“思い”を汲んで、無理を聞いてくださった結果与えられたものです。まず、助成を決定いただいたチャリティバンクの関係者の方々に感謝申し上げますとともに、助成申請にあたり協力いただいた方々、今まで測定をいろいろな面から支えていただいた方々に、感謝申し上げます。

ここでは、申請の際にチャリティバンクにお伝えした測定に対する私たちの“思い”を、一部抜粋してみなさまに紹介させていただきます。

ー以下抜粋ー

『今年は原発事故から 10 年目に当たります。それを機会に、放射能問題はもう終わったことにしよう、これからは復興に向けた取組みだという風潮も強くあります。しかし、測定結果からも分かるように明らかに放射能は残っています。地元の方々は、10 年を過ぎても放射能がある中で暮らしていく必要があるのです。何かできるのかと考えたとき、「測定の継続」ということに至りました。まず、放射能汚染は終わっていないということを地元の方々だけでなく、広く社会に問うためにも、今年度の調査を含め、これまでの 10 年間の調査結果のまとめを出版したいと考えています。(中略) また、将来の世代に残すべき貴重な記録でもあると考えています。次の 10 年につなげるための 10 年目です。こうした状況にかんがみ、何卒ご支援を賜りたくお願いする次第です』

ー抜粋終了ー

また、今回申請するに当たっては、測定に参加された方々を中心に、多くのメッセージをお寄せいただきました。すべて紹介したいのですが、紙面の関係上、一部の紹介に止まることご了承ください。『放射能の脅威は今も続いています。もう、事故は終息したとは思わないでください。今測定をやめたら、子どもたちに「大きな負の遺産」を残したまま、事故を起こした大人の責任を放棄することになるのです』『近くの山あい、桜の名所「馬事公苑」があります。まだ、子どもたちを連れて行ったことはありません。そこで、子ども達を安心して遊ばせることができるまで、測定は続けてほしいと思います』『今も続く「風評被害」と戦っています。そして、加速する「風化」とも戦っています。汚染マップを作り続けることは、「風評被害」を終わらせるためでもあり、同時に、「風化」を食い止めるためでもあるのです』『測定のたびに、県外からたくさんのボラさんがやって来ます。皆さんと再会するたび、「私達はまだ見捨てられていない」と実感し、涙があふれて来ます』

新型コロナウイルスの件で感じるのは、リスクが見えないとき人々や社会は、現実でなく不安が描き出すイメージに大きく動揺するということです。「正しく恐れる」ためには、現実を観る必要がありますが、そのためには起きている事実と起きていない事実を丁寧に整理する努力が必要です。しかし、断片的な情報が溢れて不安が先行する中、そのようにして現実を観ていくことはとても難しいことだと感じます。私たちの行っている「放射線量率マップ作成」や「食料・水・土壌の放射線量測定」は、放射能を「正しく恐れる」ために必要な、現実を観えるようにしている活動とも言えます。今回の助成は、今までに比べると「放射線量率マップ作成」と「10 年間のまとめと報告」を中心にした限られたものとなっています。測定にかかる諸経費や、土壌線量の測定とマップ作成を含めると、さらに 100 万円以上の費用がかかる見込みです。私たちの測定に対する“思い”を汲んでいただき、ぜひみなさまからもご支援をいただけたら幸いです。

「ミルクキャンペーン 2020」 のご報告

基金理事 イェヴゲーニヤ・ドンチェヴァ

粉ミルクの支援は、さまざまな位置づけの5つの病院を選んでいます。

ナロジチとコロステンの地区病院は、汚染地域にあります。被災者の資格を持つ子どもたちはすでに3世代目で、特別の注意とケアが必要です。ナロジチ地区病院が必要としているのは一般的な粉ミルクで、経済状態が厳しいため粉ミルクが買えず、必ずしも放射能測定をしていない、自宅の乳牛の牛乳を新生児に与えている家庭に提供されます。

コロステン地区病院は、出産のあった12の村で粉ミルクを提供しました。これらの村は、汚染地域の第3または第4ゾーンに属しています。ここでは、特殊粉ミルク（抗アレルギー、ラクトースフリー）にも重点が置かれています。

ジトーミル市では、市立小児病院・州立小児病院・州立特殊孤児院に提供されています。市立小児病院では、ジトーミル市在住の子どもたちが治療を受けています。院長は、特殊粉ミルク（抗アレルギー、ビタミン配合、ラクトースフリー）に重きを置いています。それらは非常に高価で、すべての家族がそのような治療用粉ミルクを購入することはできないからです。病院の調理室に粉ミルクを搬入した時、当直の医師は非常に喜びました。「これで病気の子たちにこのミルクを処方できる！」と。

州立小児病院では、子どもたちの診断名は非常に深刻なものです。地元の病院が治療することができない場合、州立小児病院での治療に移送するのです。ここでは治療目的の粉ミルク、吸収不良症候群対応や低アレルギー性のものが主です。これらの粉ミルクを提供される子どもたちは、親権を

放棄された子どもたちです。これらの乳児たちは100%が深刻な疾患を抱えており、特別な栄養とケアを必要としています。未熟児セクションの医師の話で



は、「この子たちは、基本的にあなた方のミルクのおかげで助かっているのです」とのこと。

このような子どもたちは、退院後、州立特殊孤児院に引き取られます。同院には、今日86人の子どもたちがいます。国は彼らの生活費を支払いますが、それだけでは足りません。この子たちの主な疾患は、神経系疾患、先天性異常、発育不全、精神及び行動の障害です。院長の要請で、私たちはフルーツや肉のピューレ、フルーツジュースを購入します。これらは、年長の子どものためのチョコレートのようなものですが、この子どもたちにはチョコレートをくれるママやパパはいないのです。その代わりに、日本で寄附をしてくれるママやパパがいます。ウクライナのカードを日本に送る「クリスマス・カード・キャンペーン」の際には、いつもこの孤児院の子どもたちの手になる数十通のカードが届きます。

親愛なる日本の友人の皆さん、私たちはあなた方がウクライナに送ってくださる支援を本当に貴重なものと思っています。そして、自分の子どもを育てながら、遠いウクライナの子どものことを思ってくれる日本の母親たちに、心からお礼の言葉を言います。母親の心は、子どもがどこに住んでいるように、いつでもその子を支えたいと感じるものなのです。

ホステージ基金、被災者団体からの情報提供」

(山盛)

チェルノブイリ支援を行うにあたって、被災者の置かれている状況を知ることは必須である。

ホステージ基金・ドンチェヴァさんから、また、事故処理作業員の団体…慈善基金「チェルノブイリの消防士」、チェルノブイリ障害者連盟「ブリピャチ・センター」ジトーミル支部、そして、＜内務省及び保健・教育・科学機構の職員、またその他のカテゴリーの、チェルノブイリ惨事の結果被災したジトーミル州のボランティア団体＞「チェルノブイリの鐘」から情報提供があった。その一部を紹介する。



現在支援
対象地域の
ジトーミル
州の人口は
247,000 人。
チェルノ

ブイリ被災者として補償を受ける資格のある州民（事故処理作業員および被災者）は 174,000 人。

今年のチェルノブイリ被災者の治療補助金（国）は 1,360 万グリブナ（約 5,400 万円）で、昨年是一年当たり 72 万グリブナ（約 290 万円）である。「チェルノブイリの鐘」の情報によれば、「いったいこの金額で治療が受けられるでしょうか？ 医薬品代が足りないため、私たちはただ死んでいくしかありません。私たちの団体には 28 人の障害者がおり、常時支援を必要としていて、私たちはなんとか自力で彼らを助けようとしています。世界を救った事故処理作業員たちが、ただ忘れ去られているということが、私たちの家族や友人たちを前にして恥ずかしく思われます」。

また、補償の対象になる住民に、無償で医薬品を提供するための国の補助金は、ジトーミル州立成人病院・州立腫瘍診療所・州立小児病院に、昨年度は 712 万グリブナ（約 2,848 万円）配分されたが、今年は支給されなかった。

サナトリウムでの保養について。第一カテゴ

リー（障害者資格を持つ）事故処理作業員のサナトリウムでの治療については、100%保障されているが、残念な事に、健康状態が理由で、彼らはこの補償を十分受けることができない。最も多く補償を受けているのは、ジトーミル市やその他の地区の大きな町の人達であり、「チェルノブイリの消防士たち」は、事故処理作業員たちを受け入れるサナトリウムが老朽化し、また遠方であって、そこまでたどり着くことが困難であると伝えている。

汚染されていない食料入手のための補償金は、チェルノブイリ被災者の資格を持っている全てのジトーミル州民に支払われている。避難した人も被曝しており、その子どもたちや孫はチェルノブイリ被災者の資格を持っており、学校や幼稚園の給食が無料という補償、また汚染されていない食品入手のための補償金も、わずかなではあるが支給されている。

また、チェルノブイリ惨事と関連のある疾患を持つ 6～18 歳の児童障害者に 2020 年度の補助金は 1,719 万グリブナ（約 6,876 万円）、6 歳未満の児童障害者については養育手当も含め 3,498 万グリブナ（約 13,992 万円）となっている。

その他、家賃と公共料金は 50%の割引。住房保障に対しては、2014 年から 2018 年までに支払われず、その後法改正が行われ、予算が付き支出されることとなった。たくさんの情報があり、すべてを載せることはできなかったが、このような情報提供は今後も行っていきたい。



自宅にてバイオガス発生装置を建造中です。

南相馬市の「油菜のさと」への技術移転を構想（長野県南箕輪村 原 富男）

〈バイオガスの素晴らしさ不思議さに惹かれ〉

今年2月3日から、我が家の庭で「バイオガス発生装置」を作りはじめました。バイオガスについては20年ほど前に伊那市の小野寺さん宅の工事を手伝い。その後ウクライナのラスキ村、福島県郡山市で皆さんの協力の下、設計施工した経験があります。生ゴミや牛糞などを投入するだけでメタンガスが発生し、煮炊きにガスを使え、排出液は優良な液体肥料になるという、バイオガスの素晴らしさ不思議さにひかれ、多くの人に広めたいと思ってきました。

〈コンクリート製から醸造用タンク利用へ

費用と工期半分に〉

しかし、簡単に普及が進むわけではありません。普及を妨げる一つの原因は、コンクリート製の場合、型枠づくりなどに時間がかかり、金額も高くなることでした。4人家族が毎日ガスを使う量を発生させる装置は、発酵槽10m³、建造費は400万円、工期も4ヶ月はかかってしまいます。そこでコンクリートに代わる安価なバイオガス装置はできないかと考えていたところ、日本酒の醸造用発酵タンクに出会いました。醸造会社では、設備の更新で中古タンクが余り、リサイクル業者がその仲介をしていることを知りました。このタンクを使えば、建造費はおおよそ半額の200万円、工期も2ヶ月に短縮できる見通しを持ちました。そこで建造費やガスの発生を実際に確かめるために、自宅に醸造用タンクを使ったバイオガス発生装置を作ることになりました。もう一つの理由は、バイオガスによる小型発電機の開発です。バイオガス用の小型発電機は市販されていないため、市販の小型発電機を改良した経験がありますが、発電が安定しなかったため、安定した発電機を作りたいと思ったのです。その為には自前の装置が必要です。

〈型枠作りがないと仕事が早い

掘削～土台～タンク設置〉

我が家の発酵槽のサイズは11m³（11,000ℓ）

の醸造用タンクで、昨年12月に購入しておきました。2月3日に工事



をはじめ、もう少しで2ヶ月になろうとしています。本業の仕事も入り、天気にも左右され、放射能の吸着実験も同時進行なので、毎日工事ができるわけではありません。それでもかなり作業は進展しました。工事は、最初にリース会社から大型のパワーショベルを借り、地下4mまで掘り下げ、直径4メートルの穴を掘りました。整地は人力では時間がかかりすぎるので、ミニバックホーを借りてきて、クレーンで穴の中まで吊り降ろし、整地で出た土は大きな鉄製の桶に入れ、これをクレーンで吊り上げダンプカーに乗せるという作業をしました。穴の中は綺麗に整地され、この上にコンクリートの土台を打ちました。コンクリートは生コン車を頼み、ホッパーという漏斗状のバケツに生コンを入れ、それをクレーンで吊り下げ型枠の中に入れるという作業です。コンクリートの乾きに合わせ、今度は醸造用タンクを穴の中に入れる作業です。クレーンの転倒も予想されたため、クレーン付きトラックの荷台に3トン近いバックホーを重石代わりに乗せ、タンクを吊り降ろしました。これで見事安定、問題なくタンクを設置することができました。

〈投入・排出用パイプの取り付け～

断熱材貼り～埋め土～点検口づくり〉

次は、投入パイプと排出パイプの接合。タンクからの取り付け部分を丁寧に接着剤で安心できるまで埋めた。この取り付け部分に、投入パイプと排出パイプを取り付ける。今度は、タンク自体の保温性を高めるために90cm×1.8mの断熱材をタンクの壁に貼りつける。

仕上げはその上からビニールを巻きつける。これでタンクの肩までの保温は完了。この段階から埋め土が始まる。埋め土は現在、肩の位置まで終了。次は、発酵槽のてっぺんの点検口（直径 75 cm 穴）を 50 cm に縮小する工事をする。蓋の真ん中にはガス取出しパイプを設置し、蓋の固定は受け口側と蓋の外側に粘土をはりつけ固定する。

〈完成まであと少し、工事は 70% まで進行中〉

現在、発酵槽の上側のドーム状の部分にも断熱材を載せたところだ。今後は、この上にワイヤーメッシュという金網を載せ、コンクリートを流し込む。これで上部からの圧力に耐える丈夫なタンクが完成する。土を全体に寄せ、投入口、排出槽を作れば完成となる。

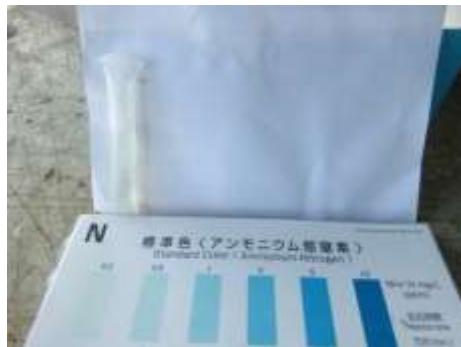
〈生ごみを燃やしたり、牛糞を必要以上に撒くより、バイオガスにした方が良い〉

これまでの工事中に色々なことが起きた。その一つは長野県の対応だ。装置の建造に先立つ昨年 11 月に、県の自然エネルギー助成金に応募したが、玄関払いであった。理由は、「牛糞は産業廃棄物だから、それを他所から買ってきて使うのは、廃棄物処理法違反だ」というのだ。杓子定規に考えていたら、折角の未来ある技術が発展できない。生ごみを石油を使って燃やして処理するよりも、ガスとして利用したり、液肥を作る方がまっとうだと思う。牛糞にしても同じだ。我が家のバイオガス工事が進むにつれ、色々な人が工事を見に来てくれた。その中に先程の長野県環境エネルギー課の職員の訪問もあった。彼らの様子では、玄関払いの時点でバイオガスの知識がそもそもなかったのではないかと思われる。ここに至っても、県の姿勢は「牛糞は産廃」という見解から抜け出していない。私自身は、バイオガスを自由に使いたいし普及させたいので、これらの見解を正し、誰でもがバイオガス装置を持てるように、県とも協議して行くつもりだ。我が家のバイオガス工事が信濃毎日新聞や中日新聞に取り上げられるに至って、近隣の市町村のからも見学者があり、市町村議員なども見えている。これからもバイオガスの普及に努めたい。

〈南相馬でのバイオガス利用に

道筋をつける 放射能 吸着実験〉

これまで、工事期間中に工事と合わせて放射能の吸着実験を行ってきた。吸着実験は将来、南相馬市でバイオガスによる地域作り計画「油菜のさと」事業のプランに合わせ、バイオガス装置でナタネ油粕などを分解し、併せて廃液中の放射能を吸着装置で吸着し、放射能の循環を断ち切ろうとするものだ。吸着装置は 50ℓ の角型漬物桶 2 個の中を 6 枚の板で仕切り、W 状に上下に水が動き、底に沈んだゼオライトが放射能を吸着するという仕掛けだ。実験では本物の放射能を使えないので、代わりに硫酸を水に溶かし使用した。毎日の実験は、自宅から毎朝 100ℓ の水をトラックで工場に設置した吸着装置まで運び、それを硫酸と攪拌する。次に投入タンクに投げ込み、ヒーターを入れ 30℃ まで加温する（外気がマイナス近くなる時があるので）。お昼に温度を確認し、1 分間に 1,000 mmℓ、または 2,000 mmℓ の速度で水を流す。流し終えた水の中の硫酸がどれだけ吸着されたか、夕方測定する。実験は 21 日間行い、吸着率は 95%～98% の範囲だった。これならば、今後計画される南相馬での吸着装置として、実用できることになるだろう。



トリチウム汚染水の海洋放出

----- 風評被害ではなく実害が起こる -----

10 年目を迎えた福島第一原発事故は、いよいよ汚染水対策を迫られる。東電は 3 月 24 日、汚染水の海洋放出について、拡散範囲の予測を発表した。ALPS（多核種除去装置）で除去できないトリチウムを含む汚染水は、現在 120 万トン溜まっている。この中のトリチウムの総量は 860 兆ベクレル（ 8.6×10^{16} 乗 Bq）。通常の沸騰水型原発が作り出すトリチウムの約 4000 年分に相当する。これを東電の排水基準（1500Bq/l）にするには、570 億トンに希釈する必要がある。この汚染水を毎日 520 万トン（毎秒 60 トン）、30 年間流し続けなければならない。これで問題が起きないのか。

切羽詰まった国の決定

東電の報告は、経産省の「多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会（通称 ALPS 小委員会）」の 2 月 10 日の決定に基づくものである。汚染水の処理対策を迫られた同小委員会は 2 月 10 日、汚染水対策として「海洋放出が現実的な選択肢」との結論を出した。陸上保管などの案もあったが、同委員会は「自然災害や腐食、操作ミスなどにより外部に漏れるおそれ」を指摘して海洋放出が現実的、と決めた。意図して流すのと事故で漏れるのと、何処が違うのか。事故では高濃度で漏れるが希釈して流せば安全、という論理だろう。専門家と称する原子力村の住民は、トリチウムのベータ線エネルギーが小さく、また水として体内に入ってもすぐに出ていくので影響ない、という。その結果、トリチウム水海洋放出の最大の問題は「漁業への風評被害」だという。風評なら世論操作で何とかできる、という判断だ。漁業者たちも風評被害が怖いと言う。この考えは間違っている。

トリチウムは DNA を破壊する

トリチウムは水素の同位体で、化学的には水素と区別がつかない。そのため、トリチウム水が生物体内に入ると、生化学反応によりトリチウムは、細胞内の分子の炭素や酸素・窒素・リン等と結合して、蛋白質や DNA・RNA 等生体分子の一部として取り込まれる。これをオーガニック・バウンド・トリチウム OBT という。筆者は現役時代、トリチウム水で大腸菌や酵母菌を培養して、トリチ

ウム DNA や RNA、蛋白質を作り分析した経験がある。生物学者なら常識だ。細胞内で、トリチウムはベータ線を放出しながら崩壊する。半減期は約 12 年。その間、周囲の細胞は被曝する。如何にエネルギーが小さかろうと、細胞内で出る放射線は全て内部被曝の原因になる。だが更に大きな問題は、トリチウムの崩壊で起こる DNA の物理的破壊だ。DNA を構成する炭素や酸素・窒素・リン等に結合しているトリチウムは、崩壊してヘリウムになる。ヘリウムは安定元素で、他の元素と化学結合出来ない。その結果、トリチウムがヘリウムになった途端、相手の元素（炭素・窒素・酸素・リン）との結合が切れ、分子が不安定になり、炭素や窒素・酸素等の元素間結合が切れ DNA が壊れる。OBT の崩壊による生物影響については、沢山の論文がある。DNA 構成要素の一つチミジン（T）中のトリチウムは、37Bq/ml 位の濃度から染色体異常が起こるという研究もある。また、トリチウムを含む分子を胎盤は区別できないため、母親の体内のトリチウムは胎児に取り込まれる。その結果、先天異常や死産・流産の増加が起こったという事例もある。アメリカのローレンス・リバモア国立核研究所の T.ストラウス等の研究では、トリチウムによる催奇形性の確率は致死性がんの確率の 6 倍という。トリチウムの多いカナダの重水原子炉の廃水が流入するオンタリオ湖周辺には、先天異常や流産死産が多い事で知られる。トリチウムの海洋放出は、決して風評被害では終わらない。実害が起こってからでは遅いのだ。

（2020 年 3 月 25 日 河田）

3.11 東日本大震災祈念日にあたりウクライナからのメッセージ

同胞である日本国民の方々に
東日本大震災の悲しい祈念日にあたって

尊敬する友人であり 同胞の皆さん！

兄弟である日本国民の皆さん、私たちは今日、2011年3月11日に日本の東北地方で発生し、原発事故をもたらした歴史上最大の地震と津波の一つの犠牲者を悼んで、深く頭(こうべ)を垂れます。

ウクライナ国民は、おそらく他のどんな国民にもまして、日本で起こった悲劇的な出来事を深く理解し、日本国民の前に何年にもわたって立ちはいだかる、地震と津波、またそれらによって引き起こされた原発事故の影響を克服するという課題の困難さを意識しているでしょう。

原子力の惨事という地獄のあらゆる領域を巡ってきた私たちは、皆さんの不幸と苦しみを我が事のように受け止めています。私たちは悲しみ、皆さんに、恐ろしい災厄をもたらした取り返しのつかない損失——死者と病人、そして何世紀にもわたって破壊された環境！——に対して、心からの同情を表させていただきます。そして人類が、このような事故とその危険な影響から結論を引き出し、平和と人命を何物にもまして重んじることを学ぶと確信しています。

チェルノブイリ原子力発電所の事故の事後処理にあたった消防士たちの名において、チェルノブイリの惨事の影響を克服するという事業に対する長年のご支援に、衷心より感謝申し上げます。皆さんの自己犠牲と、私たちの運命、健康と生活に対し無関心でいられないというお気持ちは、涙が出るほど私たちを感動させました。

皆さんのお仲間が、恐ろしい不幸を克服され、ご健康とご多幸、愛情に恵まれますように。

私たちは、神が私たちを生き永らえさせ、人生の困難な時期に真の友人である日本の方々に遣わしてくれたことを、幸せに思っています。未来を造り変え、近しい人々を支援する皆さんの善い行いに、神の祝福がありますように！ 皆さんがすみやかに本来の生活を取り戻されることを信じています。運命は、皆さんの貴重な配慮と愛情に満ちた心、自己犠牲に対して報いずにはいないはずですから！

2020年3月10日

事故処理作業員である消防士たちに代わって
慈善基金「チェルノブイリの消防士たち」代表
ボリス・チュマク

2020年3月11日、日本の人々、そして彼らとともに全世界は、悲劇の日付、東日本大震災と津波の9周年を思い起こします。それによって何千人もの生命が失われ、今の世代の人たちの記憶に残る巨大な核惨事が引き起こされました。

何万人もの日本人にとって、3月11日は過去を思い起こすきっかけになる日です。彼らは未だにこの惨事を生き続けています。「フクシマ」の基本的な教訓を、人々は議論の余地がない事実として理解しています。原子力が、再び全国民の存在を危険にさらすようなことを許してはならないと。

「日本のサムライ」の一人、福島第1原発事故の事故処理作業に直接参加した人の手紙が、私たちを感動させました。彼は匿名であることを希望しています。

『私たちの闘いはまだそのさなかですが、それでも私たちにとって心の重荷を減らしてくれるのは、人々が私たちを支えていてくれることです。ただ、原発で多くの人が、厳しい条件の下で事故と闘っているということを、彼らにわかっていただけだと思います。私の言えることはそれだけです。泣いても仕方ありません。私たちが地獄にいたのだとしたら、私たちにできることは、天国の方に這っていくことだけです。どうぞ気を弛めないうで、原子力エネルギーの持っている隠れた力を忘れないでください。私は必ず仕事の再開を実現させてみせます。今後ともサポートをお願いしたいと思います。どうもありがとうございます』

チェルノブイリと福島原発における現代の人災は、日ウ両国を結びつける支え合いと友好をもたらしました。私たちは、ジトーミル州の住民たちへの変えることのない配慮と支援に対して、日本の方々に深く感謝しています。私たちもまた、今後も協力を続け、経験交流のため全力を尽くし、日本の方々に支援の手を差し伸べさせていただきます。深い敬意を込めて

「チェルノブイリの人質たち」基金理事
イエヴゲーニヤ・ドンチェヴァ

2020年3月11日



* * * * *

第2回「**油菜ちゃんワークショップ** ～油菜ちゃんで石けんを作ろう～」（戸村 京子）



「油菜ちゃんワークショップ」では、前回（1/25）に続き 3/20(土)に、南相馬産のナタネ油・“油菜ちゃん”の廃食油を使った石けんづくり・2 回目を行いました。今回は、折しも新型コロナウイルスの感染拡大の中であり、参加者を縮小して 4 名で行いました。講師の河田昌東さん(チエル救理事)のお話を、初参加の少人数でじっくりと聞くことができました。ボールで苛性ソーダを水に溶かし、油菜ちゃんの廃食油を加えて、反応を見ながらよく攪拌。ちょっと恐る恐るではありましたが、廃食油の違いで固まり具合が違ふこと、今回はアロマオイルを加えて香りをつけてみたり、その変化を見ながら、若かりし頃の学生時代の科学実験を思い出したりしました。“けん化”の様子を見て容器に流し込み、3～4 日後に適当な大きさに切り、1 か月ほどで石けんのでき上がりです。参加者各自が持ち帰って、今頃はオリジナルの手作り石けんになりつつあることでしょう。前回の参加者からは、「とても使い心地がよい」、「家族で気に入っています！」という声が届いています。

2020 年度は、「油菜ちゃんワークショップ」の活動で申請した「東海地域 NGO 活動助成金（名古屋 NGO センター・真如苑共催）」が得られました（20 万円）。今回のような石けんづくりを始め、油菜ちゃんの新油を使って、ハンドクリームやアロマオイル作りに挑戦したり、クッキングやお菓子作りも計画しています。詳細については、新型コロナウイルス感染の終息状況を見ながら日程等を決めていこうと考えています。

南相馬の農地で菜の花が黄色く咲き誇り、有機農業による黄金のナタネ油・“油菜ちゃん”が生産され、それが市民の皆さんの手に渡って消費されて、初めて福島農地の再生していきます。どうぞ“油菜ちゃん”を応援してください。

ピースあいち／ギャラリー展

福島を忘れない・・・原発事故から 9 年

（河田）

「ピースあいち」では毎年、この時期に福島原発事故とそれに伴う被災地についての展示を行ってきたが、今年のテーマは

「福島を忘れない」である。事故から 9 年が経ち、オリンピックやコロナ騒動で福島の被災地はすっかり影が薄くなったが、放射能の汚染はまだまだ続き、故郷に帰れない人々は今も 4 万人に及ぶ。今年の展示は、事故を起こした原発の現状をパネル化し、スタッフが最近の飯舘村や大熊町の現状を写真に撮って展示している。国や東電は、廃炉目標を 40 年というが、現状は 9 年経ってやっとメルトダウンした炉心の状況をロボットで観察できた段階で、860 トンに及ぶ溶けた炉心を取り出す技術はこれから開発せざるを得ない。因みに 34 年前に起こったチェルノブイリ原発は、2 年前にやっと石棺を覆う金属のカバーが出来、解体作業が始まったが、ウクライナ政府によれば廃炉までには今後 100 年かかる見込みだという。除染に伴って出た膨大な量の汚染土を入れたフレコン・バッグは、飯舘村など規制解除された村や町の中では見えなくなったが、道路脇から山間部に移動しただけである。

チェルノブイリ救援・中部では毎年 2 回、被災地の放射能汚染を測定し汚染マップを作ってきたが、その推移も展示してある。是非ご覧ください。

展示期間：2 月 29 日～5 月 7 日（火曜日～土曜日 11:00～16:00 まで）

場 所：名古屋市名東区よもぎ台 2-820(電話 052-602-4222)地下鉄東山線 一社から徒歩 15 分





私がいま
行っている
油菜ちゃん
の拡販レポ
ートをさせ
ていただく
その前に、
油菜ちゃん

と私の出会いについて、少し話をさせてください。

さかのぼること 11 年前、私が名古屋 NGO センター企画「NGO スタッフになりたい人のためのコミュニティカレッジ（通称 N たま）」でインターンをさせていただいたことが、当団体との出会いでした。それから 10 年間、愛知から離れ千葉で仕事をしていたこともあり、ご無沙汰になっておりました。ですが、一昨年愛知に帰ってきたとき、ふと事務所メンバーの顔が見たいな、と思い事務所に顔を出したことが、油菜ちゃんとお出会うきっかけとなりました。油菜ちゃんから、「放射能汚染影響下の苦しい現実からでも、これまで蓄えた経験を糧に新たな未来の可能性を見出せる」「苦難の中でも、人間・植物は強く生きていくことができる」…そんな強いメッセージと衝撃を感じました。

正直に申し上げますと、私自身が震災で被災された方々の力になりたいとは思ってはいたものの、仕事や家庭を理由に「何もできていない」という気持ちがずっと心にありました。その気持ちは、いつしか後ろめたさへと変化していきました。それらがつながり、いま微力ながらも、油菜ちゃんをもっとたくさんの方に知ってもらうべく、名古屋市千種区で毎月第一土曜日に行われている『猫洞マルシェ』への出店を行っています。

『猫洞マルシェ』とは、「TOI designs（とわでざいん※）」という、「人の暮らしに生涯寄り添える衣服を作ること」をコンセプトにしている衣服のブランドが月に一回、そのお店の軒先で行っているマルシェです。大きなお店でも大きなマルシェでもありませんが、そのマルシェに

はそれぞれ素材にこだわったお菓子屋さんや無農薬農家さん、時にはマッサージ屋さんなどなど、とても個性豊かで楽しい出店者が集まります。とあるご縁があり、昨年からそこへ参加させていただけることとなりました。

そして、実際にそこで販売を始めてみると、さまざまな声を聞くことができます。「こんないい油、絶対もっとみんなに知ってもらったほうがいいよ！」という力強く背中を押してくれる声、「この菜種油を買うことで、少しでも福島の方々の力になれると思うと、嬉しいです。ありがとうございます。」という温かい声。私のつたない説明でも耳を傾けてくださる方々が実際にいるということ、また、私と同じ気持ちで油を手にとって購入してくださる方がいるということ、そのひとつひとつが福島につながっているように感じています。ここで購入してくださる一人ひとりの方は、決して大口の顧客ではありません。一本一本、手渡しです。ですが、だからこそ、油菜ちゃんや当団体の活動、そして何より南相馬で菜種を栽培することで元の豊かな農地を取り戻そうとしている方々がいること、そういったことをお伝えできるのではないかなとも思っています。もっとたくさんの方にこれらを知ってもらえるよう、手探りながらも工夫し、地道にこれからも店頭に立ちたいと思っています。そして、今後はさらに広がりを持って展開していければな、なんてことも考えております。次回、皆様によりご報告ができますように…。



※「TOI designs(とわでざいん)」: 使い捨てでなく、長く使いたいと思える「一生モノ」の衣服づくりを目指す名古屋発のブランド。とわでざいんの素材や染料にこだわった衣服は、大量生産ではかなわない、日々暮らして着ていく中で自分らしく育てていく、そんな衣服です。命ある植物から生まれる布を無駄にしないというコンセプトから、四角衣服という独特なデザインとなっています。県外各地でも展示会・販売などを行っておりますので、ご興味のある方は <http://toi-designs.com> をチェックしてみてください。

事務局便り

「ホ基金の事務所が入っている州行政の建物で、仕事をしている全員に対し、＜本日をもってすべての部屋は閉鎖され、事務所には緊急の場合しか通さない＞という予告がありました。つまり、公に検疫体制が導入されたということです。…検疫体制のため、銀行も閉鎖され、キエフの人道支援委員会でも、あとひと月は会議が開かれません。」折しも、ホステージ基金と当事務局は、支援金送金の準備の只中であり、その時にこの情報が舞い込んだ。かつて送金先の銀行が倒産し、支援金を引き出せない事態に陥った事を踏まえ（その後、ドンチェヴァさんの尽力で回収されている）、事務局では送金を見合わせている。ウィルスの影響は日増しに顕在化していく。（3/26 現在、非常事態宣言発動との情報）（山盛）

フェアトレードショップ「風"s (ふ〜ず)」

以前、「ウィルあいち」で開業していたこのフェアトレードショップが、東片端交差点の角にある正文館書店2階に移転しました。店の名が「風"s (ふ〜ず)」だとは、承知していませんでしたが、一步入った途端、「あれ？ この店…」と気づきました。

この日お邪魔したのは、私たちの「油菜ちゃん」の委託販売についてのご相談です。そして、たくさんのフェアトレード商品が並び店内に、「油菜ちゃん」も並びことになりました。正しい「食」にこだわる方々が来店され、話題が付きませんでした。本を買うなら東片端の本屋さんで、そして2階の「風"s (ふ〜ず)」にも、ぜひ立ち寄ってくださいね。（美）



書店の営業時間：10:00～21:00 元旦を除き年中無休

風"s 営業時間：12:00～18:00（月曜日休み）電話：052-932-7373

アクセス：名古屋市地下鉄…桜通線 高岳（たかおか）下車 ①番出口より北へ徒歩5分
名古屋市市バス…東片端（ひがしかたは）下車

編集後記

- ☆タピオカを求めて行列をしていた人たちが、今はマスク、トイレットペーパー、食料品を買うために並んでいる。封鎖、配給、非常事態…戦後、ほとんど未使用だった言葉が蘇っている。（佳）
- ☆「新型コロナウイルス」が流行中。手洗い含嗽で予防対策、天気の良い日は陽に当たり、ポジティブ思考とエキナセアで免疫力を高める。しかも私は、亜塩素酸で「キープバリア中」よ。（美）
- ☆「感染者」の拡大を防ぐよりも、「感染者数」の増加が明らかになることを恐れた「安倍政権」は、「COVID-19」の検査拡充を妨害し、拡散防止対策の初期対応を誤った。そして、「お触れ」は出しても「お金」は出したくない「安倍政権」は、寝耳に水の「一斉休校要請」を発令し、母子家庭や共働きなどの生活弱者を、より一層の生活苦に陥れてきた。これは、福島第一原発事故が起きてから今に至るまで、「甲状腺のガン検診」を真面目に実施しようとしないう「安倍政権」、「帰還困難エリアの解除」を拙速に発令し、住宅補助などを打ち切る「安倍政権」、不誠実な国会答弁を繰り返す「安倍政権」…すべてに共通している。「新型コロナウイルス」よりも 圧倒的な猛威を振るっている「晋三ウイルス」、このウィルスの撲滅を図ることこそが、私達の命を守る喫緊の課題である。（J）

〒 456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷 「エーブリント」

TEL・FAX (052) 871-9473